

東京大大学院総合文化研究科教授の酒井邦嘉さん(60)による講演会「デジタル脳クライシスーA I (人工知能) 時代をどう生きるかー」(中日新聞社など後援)が29日、多治見市上山町の多治見北高校で開かれた。インターネット検索やA I に頼り切る状況について「脳を使わなくなるだけ」と警鐘を鳴らした。(吉本章紀)

ネットやA I 「脳を使わなくなる」

東大院・酒井教授講演 多治見北高生に警鐘

酒井さんは、脳の成長には「自分で考えて自分の言葉で物事をそしゃくして理解することが大切」と強調。ページの残像や紙の手触りなどとともに内容が記憶される書籍などを熟慮しながら読むことを勧めた。

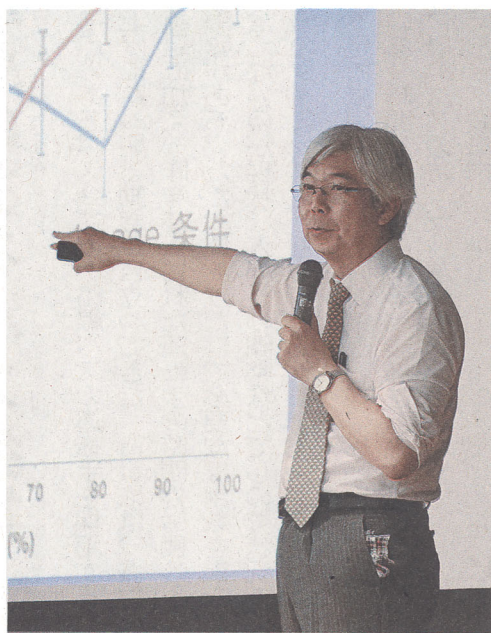
「A I が意思決定や結論を出してくれるように見えるかもしれないが、それは

まやかし」と断言。「みなさんは脳を使って、体を使って、表現を使って仕事をしていく。みなさんを変えていく力を持っている唯一の器官である自分の脳を大切にしてください」と呼びかけた。

3年の蟹江友美さん(17)は「デジタルより紙の方が記憶に定着するというのは

実感することがある。これからはインターネットで検索する前に自分で考えるようにしたい」と話した。

酒井さんは東京都出身。東大理学部物理学科卒で、同大大学院理学系研究科博士課程を修了後、米マサチューセッツ工科大客員研究員などを歴任。主な著書に「脳を創る読書」などがある。講演会は多治見北高校がDXハイスクールの取り組みの一環で主催し、生徒や保護者ら約760人が参加した。



デジタル機器への依存による思考力低下などに警鐘を鳴らす酒井さん＝多治見市上山町で